

2021.11.18 (木)
第14回例会
(通算3641回)

2020-2021年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン『我がロータリーを楽しむ。我が地域を育む。』

第85代会長 杉村 莊平
副会長 浅川 正紳
幹事 市橋 多佳丞
編集責任者 クラブ会報雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30～13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町5-3 ミツ輪ビル2F
☎ 0154-24-0860 📠 0154-24-0411

2021-2022年度
国際ロータリーテーマ



幸仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021-2022年度
RI会長 シェカール・メータ
第2500地区ガバナー
漆崎 隆 (釧路ベイ RC)

月間テーマ	ロータリー財団月間
本日のプログラム	釧路ロータリークラブ創立 85 周年記念例会 Part2 (担当：理事会 / 親睦活動委員会)
次週例会	鉄道高架と都心部まちづくり計画について (担当：プログラム委員会)

■ロータリーソング：四つのテスト

■ソングリーダー：川合 隆俊君

■会員数 103名

■ビジター なし

■ゲスト なし

会長の時間

杉村 莊平会長



皆さん、こんばんは。本当に多数のご出席をいただきありがとうございます。また舟木直前会長におかれましては、初夜例会ですね。体調

が悪い中、本当にありがとうございます。

85周年 Part2 ということで開催をさせていただきます。先週の Part1 では、清水・小船井両パストガバナー、白幡パストガバナー補佐、泉先生には大変素晴らしいスピーチをいただくことができました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

Part2 でございます。皆さんのお手元に少しでも雰囲気を感じ取ってもらえればと、昭和 11 年 11 月 23 日付の新聞と 1936 と書いてある 1936 にちなんだワインとジュース、それから 85 周年の記念品を置かせていただいております。三役が総力をあげて用意をさせていただいたものでございます。補足をさせていただきますが、このワイン、ジュースも 1936 と書いてありますが、1936 年産のワインではなく、1936 年とは特に関係ございません。そのような高価なワインを用意できるわけがありません。雰囲気を感じ取っていただければと一生懸命に探しましたので、どうぞよろしく願いいたします。また、昭和 11 年の新聞で

すが、少し広告が多いように思われますが、調べましたら当時の新聞は第一面が広告面なのです。いまそのコピーサービスを取ると、第一面しか取ってもらえずどうしても広告面が多くなってしまいます。雰囲気を味わっていただければという三役の気持ちを汲み取っていただければ幸いです。どうぞよろしくお願いたします。

85 周年、杉村年度でいろいろ取り組んでおりますが、特に会員増強を頑張らせていただいております。村上大委員長、五十嵐委員長をはじめ皆さんのおかげで、現時点で 7 名の純増をいただいております。ということで、今回は釧路クラブの歴史を振り返ろう・会長挨拶第 4 弾は、歴代の中で一番会員増強を行った会長に須貝寛一さんという会員がいらっしゃいます。その方をご紹介させていただきます。

須貝さんは、大正 3 年に米町で生まれて、南大通にある教科書販売の株式会社須貝の経営をされておりました。昭和 34 年に釧路クラブにご入会をされ、47 年にクラブ会長、51 年に分区代理をされております。私は増強を行うに当たって、歴代のどのような方々が行ったかを見ていて、この業績を見て本当にびっくりしました。須貝さんは会長年度に 28 名の会員増強を行っておりました。これはダントツでトップだと思っております。この年に 9 名の退会者があったようで、それでも 19 名の純増で、年度末に 115 名の会員で終わっています。

この年に115名ということで、当時の2500地区では長年、旭川クラブが一番の会員数を誇っていたようですが、釧路クラブが創立後初めて旭川クラブを抜いて2500地区トップの人数になったようです。こちらの村上さんではありませんが、村上祐二チャーターメンバーから「釧路クラブ、創立以来の金字塔だ」とお褒めのお言葉をいただいている記述がございました。

そんな須貝さんも昭和59年に亡くなられております。当時、この功績を称えて多数の方が、いろいろな追悼文を寄せています。その追悼文の中で、清水先生がガバナーをお受けした時の有名な裏話がありまして、清水先生がご自分で書いた追悼文を見つけたのでご紹介をさせていただきます。

昭和54年9月の初めのころだったと思う。須貝さんが私を訪ねられた。午後の診療中のことであり、病院の応接室でお待ち願った。間もなく部屋へ入ると、彼の態度はいつになくぎこちなかった。

「今日は、頼みごとがあって来ました」。そして言葉を続けて言うことは「うんと言ってくれるまでは帰るわけにはいかない」とすこぶるちんちくりんである。「まあまあ、どういうことですか」と訪ねてみると、地区ガバナーノミニー指名委員会で私の名前が上がり、両角パストガバナーに言われて私の所に打診と、それからOKを取り付けるというか、強要をしに来たということが、その来訪の目的であったのです。

当然、即答をするわけにはいかず、押し問答を繰り返しているうちに、外線電話がかかってきたり、「患者さんが待っているから」と看護婦が私を促しに来たりで、いつまでも須貝さんと向き合っているわけにもいかず、とにかく何とかお引き取り願おうとすると、「引き受けてもらったと解釈するから」という勝手な捨て台詞を残して退出した。

その夕刻に、彼に電話をして「固辞」を伝えると、「もう『OKした』と伝えてしまった。私の顔をどうしてくれる」という始末。

もし、あの日、寛ちゃんが、夜に私を訪問したならば、もし飲み潰し作戦を取っていたならば、私のガバナーノミニーの話はなかったことになっていたかもしれない。合唱。

という追悼文でございます。われわれが仰ぎ見ている清水先生のロータリー人生の大きな役割を果たした人が、この須貝寛一さんというお話でございます。須貝さんも多分このように乱暴なことはしたくはなかったと思いますが、こうでもしないと清水先生がOKしなかったのだらうということで「悪者を演じた」と思っております。

ちなみに、この後、昭和56年に清水先生はガバナー

を務めるわけでございますが、当時は、この2500地区初めての『昭和生まれのガバナー』だったこともご報告させていただきます。

ということで、毎週同じようなお話になりますが、このような先輩たちの熱い思いを積み重ねて今日の釧路クラブがあったということを改めてみんなで確認しながら、今日の85周年を楽しみたいと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

幹事報告 市橋 多佳丞幹事



皆さん、こんばんは。幹事報告をさせていただきます。

まず、入口に赤い羽根共同募金の募金箱を置かせてい

ただいております。まだ赤い羽根を付けていらっしゃる方が数名いらっしゃると思いますので、ぜひ帰りにはご寄付をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

また先日、炉辺会合開催のご案内を皆さまに送付させていただきました。入会されて年数があまり経っていない方がリーダー・副リーダーとなっているかと思えます。炉辺会合は、まず開催日を決めていただきまして、事務局より担当のグループへご案内を流すシステムとなっております。まず、リーダー・副リーダーで開催日程を調整していただきまして、早急にグループメンバーへ日程のご連絡をしていただければと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

また、「台北中央ロータリークラブ創立36周年チャーターナイト」が12月に行われますので例年であれば、当クラブから台北さんの方へ行き祝意を表すところですが今年ができないことで、ここで皆さまと一緒にお祝いのビデオメッセージを撮らせていただきたいと思っております。撮影時間はコンパクトに1分間程度と言われております。本例会の終了後に、こちらの方で場所をセッティングさせていただきますので、皆さまのご協力よろしく願い申し上げます。

以上で幹事報告とさせていただきます。

■本日のプログラム■

釧路ロータリークラブ創立85周年記念例会 Part 2

親睦活動委員会 松井 聖治副委員長

親睦活動委員会です。まずは、懇親会が始まる前に創立80周年以降にご逝去されました会員のお名前を市橋幹事より申し上げていただきたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

物故会員

市橋 多佳丞幹事

それでは、80周年以降にご逝去された会員をご紹介します。



故・水野 哲君 1998年3月ご入会、2018年10月17日ご逝去、享年64歳

故・下川部善彦君 1991年8月ご入会、2018年10月21日ご逝去、享年73歳

故・白崎 功一君 1965年1月ご入会、1987年—1988年度会長、2019年4月16日ご逝去、享年92歳

故・五明 正吉君 1990年10月ご入会、2011—2012年度会長、2021年2月27日ご逝去、享年71歳
謹んでご冥福をお祈りいたします。

親睦活動委員会 松井 聖治副委員長

それでは、生前のご活躍・ご功績を偲び黙祷を捧げたいと思います。皆さまご起立をお願いいたします。黙祷。



ありがとうございました。ご着席ください。

それでは、これより『創立85周年記念例会 Part2』の懇親会の開会をさせていただきます。本日、司会をさせていただきますのは、親睦活動委員会副委員長をさせていただきます松井です。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、はじめに85周年を祝いまして、皆さまで乾杯をしたいと思います。乾杯はテーブルのスパークリングワインにて行いますので、準備をさせていただきます。

乾杯挨拶 舟木 博直前会長



皆さん、こんばんは。お久しぶりで、皆さんの顔を見てください。嬉しそうです。ちょうど5カ月ぶりぐらいの夜間例会なので、今日の体調が

良いことを願いながら楽しみに待っていました。

本日は、当クラブの85周年記念例会ということで、古いメンバーは耳タコだと思いますが、当クラブの変遷をたどれば、創立は1936年(昭和11年)11月23日、認証は12月21日になっております。その年の重大事件としては、歴史に残る「2・26事件」が起きています。それから昭和15年までに釧路ロータリークラブは続いていましたが、約10年間、第二次世界大戦の前後、国際ロータリーから脱会しておりました。1950年(昭和25年)10月2日に国際ロータリーに復帰しております。その時はまたも「朝鮮動乱」の最中ということで、戦争にすごく関係があるのかなと思っています。ちなみに、脱会の時は「真珠湾攻撃」の戦争が始まる年だったと思います。

わが釧路クラブは、世界のクラブの中で4,092番目、日本では26番目、道内では7番目の歴史と伝統を誇っております。これは歴代の会長になる時に皆さんが口にする言葉です。

会長になって思いました、少し余談になりますが、歴代会長の顔ぶれを見ますと、そうそうたる顔ぶれの方がおります。面白いのですけれど、歴代の中で一番多い名字が『吉田』さんで、4名でした。今日、吉田英一君は来ていましたか。来ていますね。ぜひ5番目の会長を目指して頑張ってください。続いては、釧路クラブでは名門の栗林さんが3名、両角さんが3名となっております。会長の任期では、清水源作会長が初期メンバーですが4期務めております。その方が一番長く会長となっております。

話が長くなりましたので、そろそろ乾杯に移りたいと思います。それでは、皆さんグラスをお持ちください。釧路ロータリークラブ生誕85周年を記念して乾杯をしたいと思います。

「乾杯」

ありがとうございました。

80周年以降の歴代会長へ記念品の贈呈

はじめに、2016—2017年度会長・木下正明君、2017—2018年度会長・邵龍珍君、2018—2019年度会長・脇弘幸君、2019—2020年度会長・天方智順君、2020—21年度会長・舟木博君。

。

80周年以降歴代会長スピーチ

2016—2017年度会長 木下 正明パスト会長



皆さん、こんばんは。80周年の会長を務めさせていただきました木下でございます。皆さんのご協力のおかげで80

周年を盛大に開催することができました。唯一の心残りが、先ほどもありました会員増強が私は「0」です。最低会長ということで、これからは「最低会長」と呼んでいただければと思います。本当にありがとうございました。

2017-2018 年度会長 邵 龍珍パスト会長



お疲れ様です。2017-2018 年度 81 代会長の邵でございます。前年度が 80 周年で、素晴らしい周年事業を行った年度で、われわれの年度は、皆さんがダラッとしたところだだと思いますけれど、僕は「あれもやりたい」「これもやりたい」ということで、当時の後藤幹事と工藤副会長、また当時の理事の皆さんがご尽力いただき素晴らしい事業をさせていただいて素晴らしい 1 年になったと思っております。

今年度、最後の務めで S A A をさせていただいております。杉村会長のもとで一生懸命頑張って、次年度は一兵卒になります。何でもやらせていただきます。ご恩をお返しするというので、何でもやりますので、「元気ですか」と言えば「元気ですか」と言いますので、今後ともよろしく願いいたします。

2018-2019 年度会長 脇 弘幸パスト会長



皆さん、こんばんは。2018-2019 年度会長を務めさせていただきました。先ほど来たら、「メインの席に座ってくれ」、「写真を撮ったら、前に座ってくれ」ということで、先輩のパスト会長がたくさんいる中で、尻が痒いような感じですがそれでも。私の年度は次年度に吉田潤司ガバナーを出すというガバナーエレクトの年度でした。ですから『P E T S・地区協議会』の開催などいろいろなことがありましたが、当時は今年度会長の杉村副会長、浅川幹事、村上・市橋両副幹事と本当に強力なサポートをいただき 1 年頑張ることができました。滝越エレクト、副会長などみんながやってくれますから何とかあります。安心をして頑張りましょう。本当に良い 1 年間を過ごせたと思っています。皆さん、本当にありがとうございました。

2019-2020 年度会長 天方 智順パスト会長

こんばんは。協会長は、吉田潤司ガバナーエレクト

の年度。私は本番の吉田ガバナー年度でございます。この 5 人の中で一番影が薄い会長だったのかと思います。「吉田丸」、要するに会長が「〇



丸」と言われますけれど、その時だけは連合艦隊でしたので、それでも一生懸命にやったつもりでございます。

自分がやったことで一番の功績は、良い吉田さん・悪い吉田さん・普通の吉田さんで作ったこと。あとは、しょうがなく杉村君を指名したことです。

ということで、お世話になりました。ありがとうございました。

2020-2021 年度会長 舟木 博パスト会長



みんな話上手の後で、上手く話ができませぬけれど、正直言って大変な 1 年でした。半分がコロナで、半分が闘病のような形でやっていました。もう 12 月の『クリスマス例会』が一番のピークだったような気がします。

それから、大見得を張って 30 人で台湾の世界大会に参加しようと意気込んでいました。でもいま思えば、もし台湾があったら、手術をせずにそのまま行っていたと思うので、今ごろいかなかったと思います。

そんなこんなで、何とかこのように元気に生きさせていただいていますことも、皆さんのおかげでございます。皆さん、本当に大変ご迷惑をおかけして、また幹事の荒井君、そして副会長の土橋君、本当に一生付き合える友だちができて、素晴らしい 1 年でした。どうもありがとうございました。

親睦活動委員会 松井 聖治副委員長

皆さん、ご歓談中ではございますが、先週に引き続きまして 3 名の方よりスピーチをいただきたいと思っております。

パストガバナー・パストガバナー補佐よりスピーチをいただきたいと思っておりますが、その前に若手を代表して工藤彦夫君よりスピーチをいただきたいと思っております。

工藤君、よろしく願いいたします。

スピーチ

工藤 彦夫君



皆さん、こんばんは。この後、吉田さんと石田さんが話をするらしいですけど、前座ということで、会長から「笑いを取れ」と言われました。

「そう、20年在籍して会長になれない人」の代表として挨拶いたします

良い宴席とはどのようなものか」ということである人が言っていました。料理は重要ではない。イベントも重要ではない。誰と一緒に祝いをするかということ。

今日は、85周年を皆さんと一緒に祝いできることを大変嬉しく思います。

もうひとつ。いま会員が103人いますけれども、先ほど会長が須貝さんの115人の話をされました。杉村会長はいままで20人ぐらい入れています。ですからなるべくしてなった会長であります。須貝さんを抜いて120人ぐらい行ってほしいということがあります。やっぱり数は力です。この会員拡大は重要だと思っております。

僕が新入会員になる前のロータリーはパシフィックホテルで例会をやっていました。僕は近くに住んでいて、木曜日が釧路クラブの例会、うちの仕事も木曜日が定休日です。

そうすると木曜日は、パシフィックの前に黒塗りのピカピカの車が20数台並びます。そうすると黒塗りの車はやっぱりヤクザかその関係者だろうと、僕はロータリーのことを何も知らずに「いや、嫌だな」と思いながらの毎週木曜日です。「きちんとルールを守るヤクザかな」と思っていたら、いろいろ聞くとロータリーでした。

12時ころ黒塗りの車が次々と並んで、12時30分にはいっぱいになる。駐車しながら運転手が煙草を吸って待っている。そのうち13時30分ころになると人相の悪い人ばかりが、指名手配犯よりも酷い顔の人ばかりで出てきて、これはすごい会だと思いました。いまの人は違いますよ。いまの人は違いますけれども、本当に何をやっているのかなと思っていました。特に幣舞橋を渡って帰る人は特に人相が悪かったように思われます。

新入会員として入ってからは、写真を撮れるものだからすぐに会報をやらされました。当時は12人委員会、だいたい一年間48回の例会あるから4回やれば済みますが、古い人たちは全然やらないから新入会員が10回とかやらされて。当時のシステムは、写真はポラロイドで撮る。ポラロイドは広角だからこの辺まで来ないと良い写真が撮れない。この辺で目が合ったら

「こんにちは」と言いたくなるぐらい近い写真。そして録音したテープを自分で起こして400字～800字にまとめて、それを月曜日の夕方までに伊貝さんの総合印刷さんに届けます。そうすると木曜日の例会までに会報誌ができてきて、伊貝さんの懐にチャリンと入るシステムでした。そのシステムに乗って、毎回一生懸命に会報をやっていました。

そうすると会報が辛いものだから「会報やるなら、ロータリーなんか」と言う人が結構いた時に、当時の藤井会長、幹事の吉田秀俊さんが「これでは大変だ」ということで、議事録を起こしてくれる「さわやか釧路」という所を見つけて、会報が楽になったという思い出があります。吉田さんの最大の功労はそれだけです。最近、職業奉仕理論などを全然やっていなかったですけど、入った当時は、アーサー・フレデリック・シールドンの『職業奉仕とは何か』を例会でもやりましたし、炉辺会合でもやっていました。当時は分からなかったけれども、歳を取って来てなかなか面白い話だと。

僕の中では、ロータリーにはこれが一番重要だと。ただのボランティア団体ではないという思想があってこそロータリーだと最近思っております。もしも、そういう話を知りたい人はネットで『源流の会』を探すとそういう話がたくさん出ていますので、よく見ていただきたいと思えます。

前座としては、このあたりで終わらせていただきます。これからも仲良くやりましょう。よろしくお願ひします。

吉田 潤司パストガバナー



皆さん、こんばんは。先ほど須貝さんの話が出ましたけれど、懐かしい人の名前が出ました。振り返ってみますと、たくさんの会員に会って、

たくさんの会長に会いました。でも、いろいろな思い出がたくさんあり、ひとりひとり言うとなら2時間ぐらいかかってしまいますので、それは省略します。

私は、1980年にロータリーに入りまして42年5カ月ぐらい経ちました。ということは、85周年の半分ぐらいになります。そのような節目です。

その中で、川口雄さんという会員がおりました。釧路クラブの精神的な支柱であり、生き字引であり、紳士であり、背が高く細く、すごく穏やかで熱心な人でした。でも、歌は歌いそうに見えませんが飲んだら歌も歌います。以前いた事務員さんとデュエットしたり、しゃれた人でした。川口さんという人をぜひ覚えていただきたいです。川口さんには、邵さんの後に

入会をした人はお会いできていないですね。邵さんの時までの人で、クラブでは25%ぐらいの人が知っていると思います。

私が入った時、清水先生がガバナーノミニーでした。川口さんの思い出はやっぱりガバナーに関係することです。私が1997年に会長に就任した時に川口さんから「吉田君、ちょっと来てくれ」と言われました。何かと思ったら川口さんが、「釧路クラブからガバナーが出ていなくなって17年になる。このままで行くと20年になる。釧路クラブにはたくさんの候補者がいるけれど、なかなか上手いかない。これからアタックはするけれども、(会長が次々年度の会長を選びますから)ガバナーになれそうな人を選んでもらえないか」と言われました。

私にとってガバナーは上の空の世界ですけども「分かりました」ということで、いろいろ考えました。ある時、新聞を見ていたら小船井さんの写真が新聞に出ていて、この人はうちのクラブの人だと。小船井さんは当時、スリーピングでしたので私は例会でもあまり会ったことがありませんでした。でも、意を決して「この人にしたい」と思って小船井さんに連絡をしてお伺いしました。初対面です。話をしたことはありません。それで、小船井さんに会いました。小船井さんも「何の話をしに来たのか」と思ったと思います。

やっぱり穏やかな優しい笑顔で「何ですか」と言われたから、単刀直入に「小船井さん、次々年度の会長を受けてほしい」と。小船井さんも多分びっくりしてポワンとしていたと思いますが、さすが小船井さんです。その時に「分かりました。1週間の時間をください」と言われました。1週間いろいろ考えて、1週間後に連絡をいただきました。「いいです。分かりました」と言われて、でもガバナーの話は全くしていません。その後、私は川口さんに「小船井さんにしました」と言いましたら、川口さんはどう考えたか分かりませんが、その後は「分かりました。任せてください」と。私はその後、一切タッチをしませんでしたが、小船井さんは見事に川口さんの希望に応じてもらいまして、次々年度の1999年の会長になり、翌年度、いまでいうガバナー補佐になってもらいました。その翌年度にガバナーノミニーです。その翌々年度にガバナーです。この短期間にガバナーになった人はいません。ものすごい勢いです。

小船井さんの素晴らしいところは頭がいいです。日大ですけど頭がいい、すごいのです。そして理解力が早いです。小船井さんがガバナーノミニーになった時に、多分パソコンは私の方が得意だったと思います。私は当時、ホームページを作ったりしていて、2500地区で最初にホームページを作ったのはうちのクラブです。

小船井さんにいろいろと教えました。1年ぐらい経っ

たら、小船井さんがメールを見て「写真、来たよ」と言って、写真を見ていました。私はメールで写真がどのようにして来るのか分かりませんでした。それぐらいの人でした。

ガバナーノミニーになった時、会議に出たら机の上にパソコンが置いてあって「キザな男だな」と見ていたけれど、それは違っていました。小船井さんの素晴らしい才能のひとつは、スピーチをその場で瞬時に要約してパソコンに入力します。ですからガバナーになった時、公式訪問に来てもすべての記録がその日のうちに全部できています。この才能は、よく新聞記者が会見の時にパソコン入力をしていますけれども、素人でそのようなことができる人はいなくて、パソコンが置いてあっても今日の行事予定を見るぐらいだと思いますけれども、小船井さんは、そこがすごかったですね。

うちのクラブには全国区のガバナーが2人います。私も多くの他クラブ・他地区のガバナーに「清水先生は元気ですか」と必ずいつも言われます。それから、必ず言われることは「吉田さんはいいですよ。小船井さんがいますから。何でも聞いていいですね」。

この全国区のガバナーがいるクラブも素晴らしいですけども、この小船井さんを育てたのは、やっぱり川口さんであり、釧路クラブの重鎮が育てたということです。

残念ながら釧路クラブは、ガバナーを選ぶのに随分苦労をしています。清水先生の周りには、柳田さんというトヨタの社長がいて、ガバナーノミニーまで行きましたけれど亡くなりました。小船井さんの後に両角さんもガバナーノミニーになりましたが奥様がガンになって亡くなりました。それから久島先生が、無競争でガバナーノミニーになる予定だったのが変な横やりというか、何かがあってなれなかったという苦労をしました。

でも小船井さんが、見事にやったことが一番の思い出だと思います

私はやっぱり思います。ロータリーに入っていないければ、このようにいろいろな人に会えず、友だちになれなかったと思います。だから、入っていなかったら寂しい人生だった気がします。

若い人、これからの人たちに言いたいことは、よく辞めていく人に「ロータリーはつまらない。何のメリットもない」と言われますけれど、ロータリーでは自分でメリットを求めていかなければいけない。そのためには、クラブに一生懸命出席をして、馴染んでいかなければダメだと思います。

私が入った時に先輩に言われたことは「100人も会員がいたら、みんなを覚えることは不可能だよ。それより覚えてもらいなさい」と言われました。「吉田です」「吉田です」「吉田です」と言ったらみんな覚えても

らえる。ここをぜひ汲んで、思っていたかまして、ロータリーを楽しんでいただき、あと15年経ちますと100年になります。100年の時にみんなでまたこの笑顔で会いたいと思っています。

どうもありがとうございました。

石田 博司パストガバナー補佐

「ロータリーに入会したころの思い出を話すように」という指示を受けました。私が入会したのは30年前です。その時の印象



は、人数からいくと110名ぐらいの勢力だったかと思えます。一緒に入ったのが、同じ町内で先ごろ他界した五明正吉君と年は1つ違いですけども彼と2人でした。入った時の印象は、いまの若い諸君と比べると同じ年の人がいなかった。あのころは若い人がいませんでした。ですから委員会でも先輩たちと随分交流がありました。歳が同じ者と寄るといことがなかったと思います。ですからロートルの方とお付き合いをさせていただき、例会後の二次会には一緒に付いて行きいろいろな話を聞かされました。それが良かったと思います。いまお話の吉田潤司さんも、亡くなった川口さんも入会をして3年目でした。

それと、確かプログラム委員長を仰せつかりました。副委員長も経験がなく、いきなりプログラム委員長でした。とても困りまして、それこそ川口さんに「どうしたら良いですか」と聞いたら、川口さんが「石田君、君の好きなようにやったらいいよ」と言うのです。それは無責任ではないかと思うほど「好きなようにやったらいいよ」と言って。

でも一応、「ロータリーは年間を通して1月は〇〇月間、2月は〇〇月間、とあるからそれに絡めてやるといいよ」とは言われました。けれども、ロータリーに入ってから2年～3年目ですから「月間」という意味も分からず、たいしたアドバイスにはなりません。まず行ったことは、委員会のメンバーに声をかけたら、やっぱり巡り合わせでいてくれた人、名前は忘れましたがNHKの局長さんと日銀の支店長さんの福田さんを覚えています。このお二方がいて、「石田君、助けるぞ。サンドイッチ会があるからそのメンバーに講師になってもらって、組み立てて行けばいいよ」と言ってくれました。おそらく初めてだと思いますけれども、ロータリークラブでプログラム作成のための委員会、毎月お酒を飲みながらやらせていただきました。プログラム完成と同時にあのお二方とメンバーとの友情も培えた1年間であったと思ひ、とても意義深い1年間を送れたと思っております。

その時に、他のロータリーとも交流をする機会が増えました。近年では見ていない『合同例会』があって、他のクラブと一緒に例会を行い、お酒も飲みます。そして他のクラブのメンバーと一緒にテーブルで語り合っているうちに、うちのクラブと他のクラブはなにか違うことを感じ始めました。他のクラブは、居心地が悪そうなのです。うちのクラブの居心地が良いと言いますか、自分のことを出すのはおかしいですけども、うちのクラブに石田がいられるのは「釧路クラブだからいられる」ということを他のクラブの雰囲気を見ていて感じます。

随分不自由なのだと分かってきたのは、各クラブにはボスがあります。ボスには、何かを決める時にお伺いを立てなければいけない存在があるのです。でも、わがクラブにはそれがありません。なぜなのでしょう。僕が入会の時に吉田潤司さんがおっしゃったことは「昔は本当にうるさい煙たい先輩がいた。行儀・仕付けのうるさい人」と。例えば（これは名誉ありますので申し上げます）「北村藤兵衛さんは本当にうるさい人だった」と川口さんもおっしゃっていました。

私が受けた印象は、この方たちは入会の時にうるさい先輩にいいだけ潰されたから、「自分が先輩になった時にはそうしない」という決意の下に、われわれ若者を迎え入れていると思ひました。ずっとそう思ってきました。だから釧路クラブの自由活発な空気とは、北村藤兵衛さんたちのような厳しい方にいいだけ仕付けられ、「あれでは嫌だと思ひた」反省をした結果が釧路クラブの雰囲気を作っているのだろうとずっと思ってきました。

けれども、どうもそれでは論理の整合性がないように思ひます。いつのころからか、まず間違いないと思ひていることは、釧路クラブには、私が言うところの外人部隊、出先の方たちが常にいるのです。いま、杉村さんにメールで確認をしてもらいましたら、15社、100名のうち15人が出先の方です。一部上場で、社員数が数十万人という会社の出先の方がいらっしゃる。これでは地元の人間が『お山の大将』ではられません。大会社の出先の方がおりますからお山の大将的なことは恥ずかしくてできない。そうすると地元の人間はみんな行儀が良くなる。そういう不思議な添加物的作用が出先の方にはあると思ひます。

われわれも習って行儀良くなるということが起こっていると、僕はいかにも笑ひを取るような言い方をしていますけれども、本当に大真面目に人間の力学として、私は、釧路クラブは出先の方たちがいてくれて釧路クラブの雰囲気を作っているとしみじみ思ひます。

ですから出先の方のおかげでこの釧路クラブの良さがある。そこに、われわれひとりひとりもこの釧路クラブの自由闊達さをとても愛していますから、それが連続とした釧路クラブの良さとしてつながっていくので

はないかと思えます。
「人が人から学ぶ」というのが僕の人生観ですから、ロータリークラブは学ぶ機会を与えてくれる場だと思っております。景気が非常に低下している中で、われわれロータリークラブは、非常に大きな役割をこれから負って行くし、負って行かなければいけない。そのような決意の下に行かなければ街がどんどん衰退してしまう。自分さえ良ければ良いという発想では自分が生き残っていけないと思えます。

私も老骨という年齢になりましたけれども老骨にムチを打って頑張りますので、お互いに、一緒に釧路の文化と経済のために尽力を尽くそうではありませんか。
随分偉そうなものの言い方をしましたけれどもお許しをいただいて。
ありがとうございました。

締め挨拶 尾越 弘典パスト会長



皆さん、こんばんは。久しぶりにマイクの前に立たせていただきまして、少々緊張もしていますが、逆に少し嬉しくも思っています。

私は、32歳の時にこのロータリーに入りまして今年で38年、年齢で70歳になりました。70の半分の35年以上こちらにお世話になって、楽しんでいます。いろいろな思い出もありますし、いろいろな経験もさせていただきました。何と言っても一番良いことは、友だちができた、楽しい仲間がたくさんできたことだと思っています。
このような会はなかなかありません。ロータリーの方が少し早かったのですが、青年会議所にも入っていま

した。その会も良い会でしたけれども、ロータリーは私が辞めない限りずっと在籍ができる本当に特殊な会です。素晴らしい仲間、良い仲間もいます。悪い仲間もいました。そしていろいろな経験をさせてもらえました。地区大会へ行って仲の良い友だちや他のクラブのメンバーと麻雀をやったり、地区大会ではそこそこに抜け出して遊びに行ったこともたくさんあります。それも本当に良い思い出だと思っています。

私は38年間のロータリーの思い出と経験があります。この中には、1年の入会、5年・10年の方もいらっしゃると思いますけれども、その思い出と経験がこれからの自分の人生のためになると思いますし、本当に良い思い出になると思っております。
今回は85周年ですけれども、90周年・100周年が目前に来ています。私も100周年までは何とか生きていけると思っています。皆さんとともにこの素晴らしい釧路ロータリークラブをつくって100年へ向けて頑張っていきたいと思っています。
今日は85周年をこのように盛大にやっていただいた杉村会長、本当にご苦労様でした。それでは、皆さんと一緒に一本で締めたいと思います。

それでは、釧路ロータリークラブ90周年・100周年へ向けてさらなる発展を、それから今日ご参会の釧路ロータリークラブの素晴らしい会員のご多幸をご祈念申し上げまして一本で締めたいと思います。それでは、ご唱和をお願いします。ありがとうございました。



本日のニコニコ献金

- 杉浦 裕之君 今年度なゆたの会、年間優勝とベスグロのダブル受賞しました。ありがとうございます。
- 米本 富夫君 昨年度、なゆたの会で総合優勝致しました。ありがとうございます。
- 濱谷三津男君 緑綬褒章を賜りました。
- 川本 和之君 本年会社が創業50周年を迎えることが出来ました。地域の皆様に感謝申し上げます。

今年度累計 179,000円

創立 85 周年記念例会スナップ



Rotary  2021年11月18日 釧路ロータリークラブ創立85周年記念  Kushiro Century Castle Hotel

